

マレーシアの教育の実際とペナン日本人学校における総合的な学習の時間の実践

前ペナン日本人学校 教諭

北海道旭川市立愛宕中学校 教諭 棚瀬 泰宏

キーワード 総合的な学習の時間、特別支援教育、日本人学校 マレーシアの教育

赴任校の概要 (2024年4月1日現在)

学校名・現地表記 Penang Japanese School

URL <https://sites.google.com/mypjs.com/home>

1 はじめに

(1) マレーシア ペナンについて

マレーシアは、マレー半島（西マレーシア）とボルネオ島（東マレーシア）から成る国である。ペナンは、マレー半島側に位置し、首都のクアラルンプールからは約300km離れている。ペナン島があるペナン州は、クアラルンプールに次ぐ人口密度を誇り、ペナン島と対岸のマレー半島側とに分かれている。その中のペナン島は、南北約24km、東西約15kmのインド洋に浮かぶ大きな島である。人口は約70万人で、多民族国家のマレーシアの中で、最も華人の人口が多いところとなっている。なお、ペナン島はイギリスが最初に入植した地で、その歴史は1786年イギリスの東インド会社のフランシス・ライトが、東南アジア進出の拠点として選んだのがこの島であった。実際に、マレーシアの首都、クアラルンプールよりも先に発展を遂げている。以後、この島は東西貿易の中継地である自由港として発展し、それによって、西洋、中国、イスラム、ヒンドゥー文化が融合する独特の雰囲気をもつ町並みが形成されている。そのため、2008年にはユネスコにより、半島側のマラッカとともに、ペナン島のジョージタウンが世界遺産に登録された。

(2) ペナン日本人学校について

マレーシアには、クアラルンプール日本人学校、ジョホール日本人学校、コタキナバル日本人学校、ペナン日本人学校の4校がある。1974年にペナン日本人会によって設立され、今年度は開校50周年を迎える。令和6年度4月現在の在籍数は小学部59名中学部23名、合計82名となっている。

2 マレーシアにおける教育及び障がい者支援について

マレーシアの小学校は6年制で、マレー語を使用する国民学校が5,876校、中国語及びタミル語を使用する国民型学校が1,826校となっている（2020年統計）、中等学校は、3年制の前期と2年制の後期に分かれており、全部で2,439校ある。その大半は普通科で、その他の中等学校は宗教（イスラム）科、技術科、職業訓練科などが設置されている。日本とは違い、小学校修了までが義務教育となっており、中等学校の総就学率は2022年の最新値で84.54%と世界平均の79.96%よりも高いことがわかっている（UNESCO）。マレーシア教育省は、中等教育の義務化を検討しているようだが、2024年現在はまだ実現されていない。先進国入りが目前と報道されているマレーシアは、発展が著しく、平均年齢が30歳ほどと若者が多い国である。一方で、日本と同様に、今後は60歳以上の高齢

人口が少しずつ増える予測となっている。そのような中で、マレーシア国民であれば、医者の診断などをもって障がい者として福祉庁に登録し、支援を受けることができる。マレーシアで障がいを抱えている方は「OKU」と（オーケーユー）と呼ばれ、社会福祉局が管轄する障がい者登録制度が1992年から実施されており、登録者には障がい者カード（Kad OKU）が発行される。同カードの取得が、福祉支援サービスの受給条件となっている（国別障がい関連情報マレーシア、2023）。

マレーシアにおける2023年1月31日までのカテゴリー別の障がい者登録統計

	年齢	視覚障害	聴覚障害	言語障害	身体障害	学習障害	精神障害	その他	合計
1	6歳未満	212	510	16	1,434	6,611	2	955	9,740
2	6 - 12歳	1,360	2,030	460	6,044	56,014	9	4,858	70,775
3	13 - 18歳	2,126	2,513	613	6,717	55,275	70	4,236	71,550
4	19 - 21歳	1,413	1,375	189	4,065	23,342	211	1,432	32,027
5	22 - 35歳	8,026	8,534	503	29,122	64,018	7,765	5,848	123,816
6	36 - 45歳	7,200	6,797	430	30,457	16,002	13,844	3,319	78,049
7	46 - 59歳	13,493	8,814	614	58,662	10,748	19,431	4,092	115,854
8	60歳以上	21,410	12,079	572	82,717	3,721	11,080	4,147	135,726
	合計	55,240	42,652	3,397	219,218	235,731	52,412	28,887	637,537

	民族	視覚障害	聴覚障害	言語障害	身体障害	学習障害	精神障害	その他	合計
1	マレー系	32,651	23,770	2,165	125,442	159,594	28,273	17,501	389,396
2	中華系	10,291	10,310	421	42,001	33,238	13,943	4,953	115,157
3	インド系	5,349	3,901	222	32,449	10,926	4,612	2,736	60,195
4	先住民	212	94	20	795	2,876	162	173	4,332
5	その他	6,737	4,577	569	18,531	29,097	5,422	3,524	68,457
	合計	55,240	42,652	3,397	219,218	235,731	52,412	28,887	637,537

LAPORAN STATISTIK 2022 JABATAN KEBAJIKAN MASYARAKAT DEPARTMENT OF SOCIAL WELFARE STATISTICS REPORT (2022) を基に作成

人口が3,340万人に対し、障がい者が637,533万と人口に対して1.9%である。日本が約7.4%とマレーシアと比べ約4倍の多さだが、福祉が充実している日本は障がい者認知が進んでいることが数値に表れていると言える。実際に、途上国に比べ、先進国の方が人口に対する障がい者の割合が高いことがわかっている。

また、統計を見ると、6歳から18歳までの学童期から青年期の12年間で142,325人と非常に多いことがわかる。マレーシアと日本を比べると、特別に支援が必要とする児童生徒に対する扱いが違い、特別支援教育が進んでいないと言える。

そこで、2023年12月10日に地域の障がい者が来所する障がい者ワンストップセンター（Pusat Khidmat Setempat OKU・Bedong）を訪問し、JICA海外協力隊ボランティアの方へのインタビュー内容をまとめると、特別支援教育における日本とマレーシアの違いが更に明らかとなった。

日本とマレーシアの特別支援教育の違い

- マレーシアにも乳幼児健診などはあるが、日本のように広く受診が浸透していない。障がいの有無を判断できる医師が多くはない。
- 特別支援学級はあるが、特別支援として認知される子どもが増えてきているので、希望してもすぐに特別支援

学級に入れず、待っている子どもが多い。また、日本のように障がいの種別によってクラスは分かれていない。

- 特別支援学級は全ての学校にあるわけではないため、保護者が支援学級のある別の地域の学校まで送っていかねばならないこともあり、保護者の負担が大きい。なお、特別支援学校は多くはなく、聾学校と盲学校は存在する（一部の聾学校と盲学校では学習障がいを抱えている子どもを受け入れている）。
- 前述の通り、マレーシアの義務教育年齢は12歳（小学校6年生まで）であり、障がいを抱えている方が満足に小学校の教育を受けられずに義務教育終了の年齢となる子どもが多くいる。
- マレーシアの障がい者福祉の基盤は、地域に密着したCBR（Community-Based Rehabilitation：地域ベースのリハビリテーションセンター）となっており、女性・家族・地域開発省が中心となって（保健所と同様の機能を果たす施設は保健省の管轄）、障がい者の教育、福祉行政等を一括して担っている。

なお、ペナンには、30年ほど前に「中澤健（なかざわけん）」氏が設立した社会福祉施設（「Asia Community Service Stepping Stone Centre」略してACS）がある。ACSは主に18歳以上の知的障がいを抱えている人が作業を行う施設で、せっけんづくりやバティック（インドネシア、マレーシアのろうけつ染めの布地）の生地づくりなどを行っており、現在は、20名ほどの人がここに通っている。30年が経過しても、障がい者を受け入れる施設はもちろん、義務教育段階の特別支援教育が充実していないのが現状である。

3 総合的な学習の時間における実践（福祉）

教師（筆者）の方で、マレーシアの障がい者支援や特別支援教育について学んだため、何か日本人学校の子どもたちにも考えさせることができないかと考えた。そこで、日本では高齢社会の問題である社会福祉について、マレーシアの現状に触れながら授業実践を行った。

(1) ねらい

- 障がいを抱えている人の気持ちを考え、どのように助け合い・支え合って生きていけばよいのかを考える。

- 福祉向上に自主的に寄与していこうとする実践力を育てる。

(2) 指導計画（10時間扱い）

① 1～2時間目 オリエンテーション グループ決め

体験の計画を立てる 当日に向けた準備

※体験は以下の体験準備から生徒主体で行った。

- 日本手話体験
- アイマスクを使った視覚障がい者体験、高齢者疑似体験
- 車椅子体験

オリエンテーションでは、作成したプレゼンテーション資料を用い、生徒へ説明を行った。日本の社会福祉の現状やマレーシアの福祉について紹介することで、福祉に対する興味をもたせることができた。

② 3～6時間目 日本手話…手話の練習、説明のスライド作り

視覚障がい者体験、高齢者疑似体験…手作りアイマスク作り、ダンボールを用いた高齢者疑似体験セット作成。

車椅子体験…車椅子の説明スライド作成、車椅子の介助方法練習

日本手話のグループでは、日本手話が説明できるように何度も練習を重ねていた。また、マレーシア手話と日本手話に違いがあるのかという自ら課題を見つけることができていた生徒もいた（実際にマレーシア手話と日本手話は違っている）。また、高齢者疑似体験グループでは、日本のように体験キットを借りることができないため、段ボールで膝が曲がりにくくなるようなものや、クリアファイルを目隠しできる大きさに切って見えにくくするものを作成した。さらに、車椅子体験では、学校の現地職員に車椅子をレンタルしてもらい、事前に使い方の練習を行った。



視覚障がい者体験と高齢者疑似体験

③ 7～8時間目 体験 グループでローテーションをしながら体験
当日は、保護者の方にも参観してもらい、それぞれの体験を行った。生徒は、初めて体験することすることばかりであったため、戸惑っている場面も見受けられたが、意欲的に取り組んでいた。



車椅子体験

④ 9～10時間目 まとめ

福祉の学習で学んだことやマレーシアと日本の福祉の違いについて、インターネット等を用いながらスライド形式でまとめた。

4 おわりに

私が赴任した3年間は、コロナ禍で1年目はほぼ休校している状態で、総合的な学習の時間に関してもオンラインでできる取り組みを行っていた。しかし、2年目以降、ほぼ通常の学校生活が送れるようになり、学校行事はもちろん、総合的な学習の時間の中で取り組める幅も大幅に増えた。そこで、自らが現地の様子や教育事情を知る中で、生徒に何か学ばせることができればという考えから福祉の授業計画・実践を行った。日本とは違い、すぐに福祉の体験キットや車椅子を借りることができないことには頭を悩ませたが、生徒の熱心な取り組みや現地職員の協力があって実践を行うことができた。

また、マレーシアと日本の障がい者支援や特別支援教育を学ぶ中で、SDGs（持続可能な開発目標）の4「質の高い教育をみんなに」という視点からも、障がいを抱えている方が質の高い教育を受けられるような環境作りが世界全体で大切だということを改めて感じる事ができた。

今後は、経験したことを生かし、国際理解教育の目標①「異文化の受容と共生の資質能力」、②「自らの国の伝統・文化に根ざした自己の確立」、③「コミュニケーション能力」、④「自ら発信し行動することができる力」（文部科学省, 2005）を意識した授業の開発を積極的に行っていきたい。

引用文献

独立行政法人 国際協力機構. (2023) 国別障がい関連情報 マレーシア pp.15

文部科学省 (2005). 初等中等教育における国際教育推進検討会報告～国際社会を生きる人材を育成するために～
LAPORAN STATISTIK2022 JABATAN KEBAJIKAN MASYARAKAT DEPARTMENT OF SOCIAL

WELFARE STATISTICS REPORT (2022) <<https://www.jkm.gov.my/jkm/index.php?r=portal/index>> (2024年8月2日)

UNESCO (2022) Secondary school enrollment, percent of all eligible children Malaysia <https://www.theglobaleconomy.com/Malaysia/Secondary_school_enrollment/#:~:text=Secondary%20school%20enrollment%2C%20percent%20of%20all%20eligible%20children&text=The%20latest%20value%20from%202022,to%202022%20is%2070.63%20percent.> (2024年8月20日)

参考文献

太田陽子 (1999) .マレーシアにおける日本語教育—現地化に向かう現状と問題点—マレーシアにおける日本語教育—橋大学留学生センター紀要,2,45-56 金子奈央 (2023) .鳥居 高編 マレーシアを知るための58章 明石書房

PORTAL RASMI JABATAN KEBAJIKAN MASYARAKAT KEMENTERIAN PEMBANGUNAN WANITA,KELUARGA DAN MASYARAKAT <<https://www.jkm.gov.my/jkm/index.php?r=portal/index>> (2024年8月20日)

SENRAI SEKOLAH KEBANGSAAN PENDIDIKAN KHAS BERDASARKAN PENANDAAN KELAS PENDIDIKAN KHAS November2023